

特別基金「アジア留学生等支援基金」助成事業

「アジア留学生インターン受入れ助成プログラム」(8年目)

全国の11団体が計11人の留学生を受入れ

「アジア留学生インターン受入れ助成プログラム」では、2019年2月に留学生インターンの受入れを希望するNGO・NPO等の非営利団体の登録を募集し、4月にインターンを希望する留学生の登録を受け付けました。その後、団体、留学生双方の分野、関心を考慮し、6月中旬にかけて団体と留学生のマッチングを行ったほか、自らインターン候補者を探した団体もありました。4～6月中旬に助成申請書を受け付け、7月に開かれた運営委員会で助成対象事業を決定しました。

19年度は11人の留学生が11団体でインターンを行いました。留学生の出身国は、中国から8人、ベトナム1人、マレーシア1人、モンゴル1人の計4か国で(図1)男女別では女性7人、男性4人でした。



(特活)公害地域再生センター(大阪市)の職員と幼稚園児対象の自転車教育プログラムを補佐した中国出身のヨウさん(右から2番目)

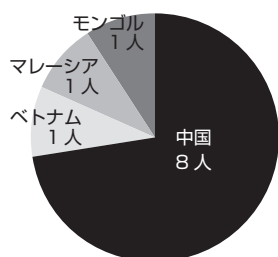
在籍大学は北海道、茨城、東京、神奈川、福井、岐阜、大阪、広島の前8都道府県にある10大学で、学部生は7人、大学院生は4人でした(表1)。

受入れ団体の活動分野は、国際協力(8件)が最も多く、社会教育、まちづくり、環境保全、文化・芸術(各4件)、日本語教育、国際交流(2件)、子どもの健全育成、保健・医療(各2件)、その他(経済活動の活性化、平和の推進、男女共同参画、災害救援活動、特定非営利活動団体の運営又は活動に関する連絡、助言等)5件でした(図2、1団体で複数の活動分野あり)。



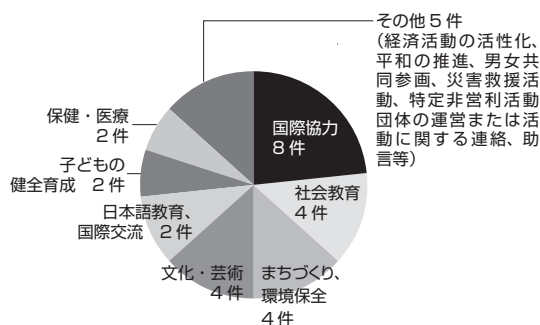
(特活)Little Bees International(荒川区)が開催したアフリカ開発会議公式サイドイベントで来場者に資料を手渡すリーさん(中央、中国出身)

【図1】留学生インターンの出身国
(2019年度)



4か国11人

【図2】インターン受入れ団体の活動分野
(2019年度、重複あり)



14分野

【表1】2019年度留学生インターンの在籍大学

大学名	学部生	大学院生	計(人)
立教大学(東京)	1	1	2
北海道大学(北海道)		1	1
筑波大学(茨城)	1		1
早稲田大学(東京)	1		1
慶應義塾大学(神奈川)	1		1
福井県立大学(福井)	1		1
岐阜大学(岐阜)		1	1
立命館大学(大阪)	1		1
大阪市立大学(大阪)	1		1
広島大学(広島)		1	1
合計 (10校、1都1道1府5県)	7	4	11

【表2】「アジア留学生インターン受入れプログラム」2019年度助成事業一覧

事業 No.	分野	受入れ団体	留学生の 出身国、 人数	インターンシップの概要	活動地	助成額 (万円)
⑫	社会教育、国際協力、 経済活動の活性化	(特活)ソーシャル バリュージャパン	マレーシア	・アジアの社会的企業や非営利組織の国際交流プログラム (特に、日本で実施する社会イノベーションに関する交流事業) の企画補助 ・開催に関わる業務運営補助、情報発信	東京都	44.9
⑬	国際協力、 災害救援活動	地球市民交流会	中国	・通訳ボランティアコーディネート ・災害時外国人支援体制づくり事務局	東京都 神奈川県 静岡県	35.9
⑭	国際協力	(特活)関西国際交流団体協議会	中国	・受入れ団体の会員サービスとイベント企画運営を中心とする活動 ・NPO 事業の研究活動 ・「ワン・ワールド・フェスティバル」 ・外国語絵本読み聞かせ会 ・外国にルーツを持つ子どもたち受け入れ事業の立ち上げ等 企画運営	大阪府	30.6
⑮	国際協力、社会教育、 文化・芸術、その他 (日本語教育)	(学)新潟国際藝術学院 佐渡国際教育学院	中国	・日本語の授業計画作成や運営補助 ・課外活動の企画・運営	新潟県	38.5
⑯	国際協力、平和の推進、 まちづくり ^(※) 、 社会教育、文化・芸術	(公社)日本ユネスコ協会連盟	モンゴル	・イベントへの海外からの来日ゲストの同行と案内 ・受入れ団体で実施する事業の広報補助 ・海外の子どもの絵日記作品の翻訳作業	東京都	30.4
⑰	保健	(公財)公害地域再生センター	中国	・自転車を活用したまちの活性化 ・地域で開催するイベントの運営補助 ・国際交流	大阪府	35.4
⑱	国際協力、 まちづくり ^(※) 、 社会教育、文化・芸術、 子どもの健全育成	(特活)劇研	ベトナム	・祭りの運営補助 ・「いきいき通信」インタビューと記事作成 ・左京東部(西部)いきいき市民活動センターでの受付業務補助	京都府	23.1
⑲	文化・芸術	(特活)アートネットワーク・ジャパン	中国	・「フェスティバル／トーキョー 19」における海外招聘 プログラムの制作補助	東京都	18.6
⑳	国際協力、国際交流	(一財)北海道国際交流センター	中国	・プログラム・イベントの運営・事務補助、観光アンケート調査の 実施 ・イベントの企画と実施	北海道	33.3
㉑	保健・医療、国際協力、 子どもの健全育成、環境 保全、男女共同参画	(特活)Little Bees International	中国	・受入れ団体が主催するアフリカ開発会議(TICAD7) 公式サイドイベント、国際シンポジウム開催のための運営補助	東京都 神奈川県	32.9
㉒	まちづくり ^(※) 、その他 (特定非営利活動団体の 運営または活動に関する 連絡、助言等)	(特活)まちづくりスポット	中国	・受入れ団体での通常業務 ・元気づくりプロジェクト活動でのアシスタント・ コーディネーター業務 ・SNS への体験記投稿、活動報告	富山県	24.8
合計	14分野	11団体	4か国 11人	11 事業	1都1道 2府4県	348.4 万円

※まちづくり(地域の経済、文化の活性化)

2019年度に実施された11件のうち、2件をご紹介します。

自分らしい働き方の形が見えてきた インターンシップ

受入れ団体名：(特活)劇研(京都府京都市)

インターンのプロフィール(申請時)

名前：ヴォ・タオ・ティー・タンさん

国籍：ベトナム

在日年数：3年8か月

所属：福井県立大学経済学部経営学科 3年

研究テーマ：財務分析

実施期間：19年8月～9月(活動合計日数15日間)

(特活)劇研は、芸術文化を通じた国際交流、児童青少年の育成、社会教育の推進を目的に、演技者を育成し舞台芸術を普及するための講座を開いているほか、演劇を学校の授業に導入する支援や芸術文化による地域のまちづくりにも力を入れています。

ベトナムから留学しているヴォさんは、美的・歴史的な価値がある京都で働くことに興味を持っており、地域の人々と交流し、価値観や視野を広げたいと考え、インターンに参加しました。

インターン初日は、劇研が指定管理団体として運営する市民活動センター主催の「ようせい夏まつり2019」の運営を補佐し、まつりの写真撮影やステージの準備活動を行いました。日々、同センターでの日常業務でインターンを行うなかで、センターが発行する「いきいき通信」の特別号に掲載する記事を作成するため、センター職員にインタビューを行

い、編集しました。

○ インターンの振り返り

“「働くこと」「やりがい」について考えられたことが一番の収穫です。また、組織というのは全員から構成されるもので、一人ひとりの中にある仕事のリズムなどが違って、最終的に全員で合わせて仕事ができると思います。そのためには、一人で悩みを抱えずに相談すること、自分の思いを伝えることが大事です。一人で対応できなければ二人で、みんなで一緒に考えようというのが日本人らしい働き方だと気づきました。”

インターンシップでは、次の活動を行いました。

- ① 夏祭りイベントの運営補佐
- ② 市民活動センターでの業務体験
- ③ 「いきいき通信」特別号インタビューと記事の作成・編集

「センター業務においては、貸館の受付やデータ入力作業、利用者とのコミュニケーションなど、日本語が必要な場面が多くあったが、最後はこちらのサポートがなくてもほとんどの業務を行えるようになった」と、受入れ団体はヴォさんの成長を高く評価しました。インターン開始前は、他人と同じ場所を共有することが苦手で、大学生活では日本語で人に質問をする機会が少なかったヴォさんは、センター職員へのインタビューを通じて「人と話すことはとても楽しい」と感じるようになり、将来は新しいことを怖がらずに挑戦するという心構えを持ちたい、と話しています。



京都市にある(特活)劇研の職員にインタビューをするベトナムからの留学生のヴォさん(手前左)

舞台が異文化の人々をつなげると信じて

受入れ団体名:(特活)アートネットワーク・
ジャパン(東京都豊島区)

【インターンのプロフィール】(申請時)

名前:陸 馨毓(リク・ケイイク)さん

国籍:中国

在日年数:1年2か月

所属:立教大学大学院文学研究科1年

研究テーマ:地域コミュニティの構築における市民参加型

演劇の役割についての考察 -

日本の市民ミュージカルを例として

実施期間:19年8月~11月(活動合計日数24日間)

(特活)アートネットワーク・ジャパンは、「芸術の社会的な力の回復」と「芸術と社会をつなぐ」という理念のもと、舞台芸術の活性化と推進、次世代を担う才能の発掘、国内外における文化交流の促進に取り組む事業を実施し、新たな交流の場の創造を推進しています。都市型フェスティバル「フェスティバル/トーキョー」では実行委員会として、舞台芸術の魅力の発信に努めています。

中国出身のリクさんは、地域の文化振興や活性化を目的とした舞台について、日本では市民や企業など異なるアクターが関わり、地域文化を広めていることに関心を持ちました。将来、芸術創造を支える仕事を希望しているリクさんは、舞台裏に関する知識や運営・企画力が足りないと感じており、現場で必要な知識、思考力、行動力を身に付けたいと、アートネットワーク・ジャパンでのインターンを希望しました。

インターン期間中は、「フェスティバル/トーキョー」の運営側に立ち、地域に根ざした芸術の創造、運営の仕組みについて学びました。

○ インターンの振り返り

“芸術分野における、コミュニケーション力と現場での行動力の重要性を感じました。1つの演目を制作するためには、多くの人のサポートが必要です。アーティストと裏方スタッフが協力し、伝えたいメッセージを観客に届けるためには、情報共有と、アーティストとスタッフが交流できる環境が重要です。また、海外作品の制作に関わり、文化や言語の壁を超えるべく意思疎通をする先輩たちの姿を見て、とても勉強になりました。”

インターンシップでは、次の活動を行いました。

「フェスティバル/トーキョー」における

- ①事前説明会、勉強会、運営研修会への参加
- ②広報補佐(中国出身アーティストの取材内容の和訳等)
- ③舞台演目の制作補佐、当日の舞台視察

受入れ団体は、「活動の振り返り時には、芸術作品を創る立場として、創作にあたって生じるさまざまな課題を見出し、今後の活動への指針を模索する姿勢が見えた」と、リクさんの積極的な姿勢を高く評価しました。商業目的ではない芸術作品の宣伝・普及について、これからの時代に合った新たな広報の仕組みを検討すべきではないか、と問題意識を持ったリクさん。今後も積極的で改善し続ける姿勢と視点を持ち続けてほしいです。



(特活)アートネットワーク・ジャパン(豊島区)が事務局をつとめる「フェスティバル/トーキョー」の研修会に参加するリクさん(手前右、中国出身)